

動き始めた 世界の薬物政策

薬物使用と非犯罪化
～私たちは、どうするのか～



You,
Unlimited



龍谷大学 ATA-net 研究センターキック・オフ・シンポジウム ATA-net JST/RISTEX 定着支援事業採択記念

2020年 **1月25日** (土)
13時～18時 (12時開場)
龍谷大学 深草キャンパス
和顔館 B201 教室

参加費無料・同時通訳・ニコニコ動画生配信予定

講演「薬物使用と非犯罪化—再使用と回復支援—」
イーサン・ネーデルマン (Ethan A. Nadelmann)

対談「いま、あなたに問う～薬物使用は、犯罪か?～」
イーサン・ネーデルマン&ジョー横溝

課題共有型“えんたく”テーマ

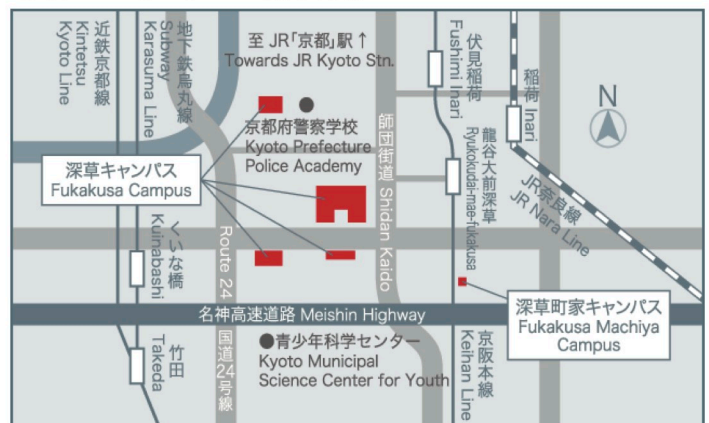
「メディアスクラムとソーシャル・インクルージョン
～当事者の位相、支援者の位相、協働の位相～」

右記 QR コードよりお申し込みください。
イベントページ：
<https://ata-net2020-01-25.peatix.com/>



交通アクセス

JR 奈良線「稲荷」駅下車、南西へ徒歩約8分
京阪本線「龍谷大前深草」駅下車、西へ徒歩約3分
京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約7分
最寄りのバス停：市バス 龍谷大学前



お問合せ：龍谷大学 研究部（人間・科学・宗教総合研究センター）
ATA-net 研究センター
京都市伏見区深草塚本町 67
TEL075-645-2184 FAX 075-645-2240
E-mail ata-net@ad.ryukoku.ac.jp
WEB <https://ata-net.jp/>
主催：龍谷大学 ATA-net 研究センター、
JST/RISTEX（社会技術研究開発事業）
「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域
多様な嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネットワークの構築（ATA-net）
共催：龍谷大学犯罪学研究センター（CrimRC）、
DARS（Drug Addicts Recovery Supports）
後援：京都市、寝屋川市、京都弁護士会、（一社）京都社会福祉士会、
龍谷大学矯正・保護総合センター刑事司法未来プロジェクト（金子武嗣基金）、
NPO 法人京都ダルク、NPO 法人アパリ、木津川ダルク

動きはじめた世界の薬物政策

薬物使用と非犯罪化～わたしたちは、どうするのか？～

登壇者紹介

いま世界では、薬物の自己使用を犯罪として処理することを止めようという動きが本格的に始まっています。依存問題の本質は、当事者の健康や社会の保健衛生であり、大切なのは、本人と地域社会の健康被害を最小限に低減させることです。このような被害を極小化するという視点から薬物政策を考えるアプローチを「ハーム・リダクション」と言います。

このような視点からすると、薬物の乱用は、その人自身の健康の問題です。薬物を止めたいと思ってプログラムを続けている当事者にとって、再使用（リラプス）は、自分の問題を認識し、これを認めてつぎへのステップにする最良の契機です。薬を使えば厳しく処罰し、再び刑務所に放り込むという刑事司法のアプローチは、当事者の回復のチャンスを奪い、支援者との関係を断つという意味で、当事者や地域の保健に有害な影響を及ぼしています。わたしたちは、誰のためにもならない社会と刑務所の「回転ドア」システムを壊したいと考えています。

第1部では、まず、アメリカから、薬物政策問題の第一人者である研究者であるイーサン・ネーデルマンさんをお招きし、最新の薬物政策の動向についてお話しいたします。つぎに、『ローリングストーン日本版』のシニアライターであるDJのジョー横溝さんとネーデルマンさんに、薬物問題の現状と課題について、対談をしていただきます。

第2部は、ATA-netの開発した新しい討議ツールである課題共有型“えんたく”の実演です。みなさんにも参加していただき、“えんたく”のプチ・ミラクル（小さな奇跡）と一緒に体験してみたいと思います。楽しみにしててください。

イーサン・A・ネーデルマン



ニューヨーク生まれ。ハーバード大学で博士号を取得。政治学者としてプリンストン大学で教鞭を執り（1987-1994）、リンデスマスセンター（1994-2000、ジョージ・ソロス氏からの資金的援助を受けて設立された薬物政策研究所）を創設後、ドラッグ・ポリシー・アライアンス（DPA）を創設し、2000年から2017年まで代表を務めた。

アメリカ月刊誌「ローリング・ストーン」では、薬物政策改革運動の「先鋒」であり、「真の薬物政策の指導者」と紹介され、1980年代後半からアメリカをはじめグローバルに、薬物政策改革運動の主要な役割を担ってきた。

TEDトーク「なぜ私たちは薬物との戦争を終わらせる必要があるのか」は、まもなく200万ビューに達し、日本語を含めた28言語に訳されている。

ジョー横溝



ライター / ラジオ DJ/MC

2017年まで『ローリングストーン日本版』シニアライターを務める。

2019年1月まで『DAYS JAPAN』編集長を務める。

現在は、音楽はもとより、ファッション、カルチャー、社会問題に関するインタビュー・取材・執筆も行い、新聞、雑誌、WEBメディアでの連載・執筆も多数。ラジオDJとしてはInterFM897『THE DAVE FROMM SHOW』『LOVE ON MUSIC』

他にレギュラー出演中。

MCとしてはニコニコ動画でレギュラー番組2本『ジョー横溝チャンネル』『深堀TV』を持つ他、『中津川 THE SOLAR BUDOKAN』をはじめとするロックフェス、音楽イベントや討論番組のMCも担当している。

著書に「FREE TOKYO～フリー（無料）で楽しむ東京ガイド100」「ポップ・ディラン語録～静寂なる魂の言葉」「永遠の言葉 LUNA SEA」他。

プログラム：（同時通訳・ニコニコ動画生配信予定）

第1部 動きはじめた世界の薬物政策 13:00～15:00

挨拶 指宿 信（成城大学／同治療的司法研究センター長）

趣旨説明 石塚 伸一（龍谷大学／同ATA-net研究センター長／ATA-net代表）

講演「薬物使用と非犯罪化～再使用と回復支援～」イーサン・ネーデルマン（Ethan A. Nadelmann）

対談「いま、あなたに問う～薬物使用は、犯罪か？～」イーサン・ネーデルマン&ジョー横溝

休憩 コーヒーブレイク 15:00～15:20

第2部 課題共有型“えんたく” 15:20～17:30

テーマ「メディアスクラムとソーシャル・インクルージョン～当事者の位相、支援者の位相、協働の位相～」センターテーブル

後藤 弘子（千葉大学／ATA-net摂食障害・クレプトマニア班）

藤岡 淳子（大阪大学／ATA-net性問題行動班）

加藤 武士（木津川ダルク／保護司／龍谷大学ATA-net研究センター招聘研究員）

近藤 恒夫（日本ダルク／ATA-net顧問）

古藤 吾郎（日本薬物政策アドボカシーネットワーク事務局長／ソーシャルワーカー）

閉会 挨拶 17:30～18:00

中村 正（立命館大学／ATA-net暴力行為班）

西村 直之（認定NPO法人RSN／（一社）日本SRG協議会代表理事／ATA-netギャンブリング班）

市川 岳仁（NPO法人三重ダルク理事／精神保健福祉士／保護司／ATA-net物質依存班）

橋元 良明（東京大学／ATA-netインターネット・携帯電話班）

横田 尤孝（NPO法人アパリ顧問／弁護士／長島・大野・常松法律事務所顧問／元最高裁判所判事／元法務省矯正局長・保護局長／ATA-net顧問）